

2006年に北海道で発生した森林昆虫

う え だ あ き ら はら ひ で ほ
上 田 明 良¹⁾・原 秀 穂²⁾

はじめに

北海道内における2006年の森林昆虫の発生状況をとりまとめたので報告する(表-1, 2)。本報告の情報は、北海道水産林務部森林整備課が収

集したデータ、森林総合研究所北海道支所と北海道立林業試験場が行なった調査および読者から直接いただいた情報による。森林総合研究所森林病虫獣害データベース(ホームページアドレス:

表-1 2006年所管別トドマツオオアブラムシとエゾマツオオアブラムシの発生状況

所管	トドマツオオアブラムシ		エゾマツオオアブラムシ	
	被害区域面積 (ha)	防除面積 (ha)	被害区域面積 (ha)	防除面積 (ha)
国有林	3.00	3.00	98.00	98.00
道有林	180.16	180.16	400.64	400.64
民有林	0.00	0.00	201.16	177.20
合計	183.16	183.16	699.80	675.84

表-2 2006年に発生した森林昆虫(トドマツオオアブラムシ・エゾマツオオアブラムシは除く)

昆虫名	加害樹種	発生地 (市町村)	発生区域 面積(ha)	備考
カラマツハラアカハバチ	カラマツ	蘭越町	35.84	
		喜茂別町	34.32	
		積丹町	57.47	
		夕張市	10.60	
		豊浦町	5.00	
		壮瞥町	616.01	
		伊達市	165.00	
		登別市	0.32	
		白老町	7.44	
		むかわ町	142.26	
		平取町	42.72	
		日高町	18.54	
		新冠町	9.62	
		グイマツ雑種 F1	新ひだか町	0.84
カラマツヤツバキクイムシ	カラマツ	浦河町	206.02	
		様似町	86.88	
		美唄市	0.36	
		札幌市	0.50	34本が枯死。森林総合研究所構内
ストロープマツ	ヨーロッパアカマツ	津別町	12.16	
			1.44	
ヤツバキクイムシ	エゾマツ	苫小牧市	15.00	157本が枯死
		千歳市	8.00	93本が枯死
		美唄市	3.88	カラマツヤツバ被害報告より移動を含む
		士別市	7.58	カラマツヤツバ被害報告より移動
		占冠村	2.19	同上
		トウヒ	0.36	
		アカエゾマツ	1.52	同上
		トウヒ	11.68	同上
アカエゾマツ	大空町	1.40		
オオマルクビヒラタカミキリ	ストロープマツ	美唄市	1.60	
シナノキハムグリハバチ	シナノキ	富良野市	5,000.00	東大演習林

http://150.26.105.86/index.htm, ユーザー名: AllUser, パスワード: alluser) については, 2006年の伊達市・壮瞥町でのカラマツハラアカハバチ被害について, 後志森林管理署の森氏・佐々氏からの情報が登録された。今後, 読者の更なる活用を期待する。このデータベースはどなたでも上記のユーザー名とパスワードで閲覧可能であるが, ウェブ上での情報入力には予め個別のユーザー名とパスワードの取得が必要なので, 事前に当該都道府県の森林・林業試験研究機関の保護担当者に連絡されたい。また, 従来の専用ハガキでの情報提供も随時受け付けている。ハガキをお持ちでない方は, 森林総合研究所および都道府県の森林・林業試験研究機関の保護担当者または勸林業科学技術振興所に連絡をいただきたい。読者から, なるべく多くの情報提供を切望している。本報告に先立ち, 発生情報をお寄せ頂いた関係各位にお礼申し上げます。

2006年の発生の特徴

カラマツ食葉性昆虫の総発生面積は1,576haに達し, 2004・2005年の約1,200haよりやや増加したが, 2003年の3,730ha, 2002年の5,000haより少なく, 2001年の23,000haと比べると明確に少なかった(尾崎・原, 2004; 上田ら, 2004, 2005; 上田・原, 2006, 2007)。種別にみると, 2005年に引き続きカラマツハラアカハバチのみの被害であった。2005年の被害は豊浦町から様似町までの太平洋側の8市町の被害であった(上田・原, 2007)が, 2006年は内陸に広がり16市町の被害となった。本種の最初の大発生は, 胆振・日高地方で1977~1984年の8年間に128~2,830haの面積で

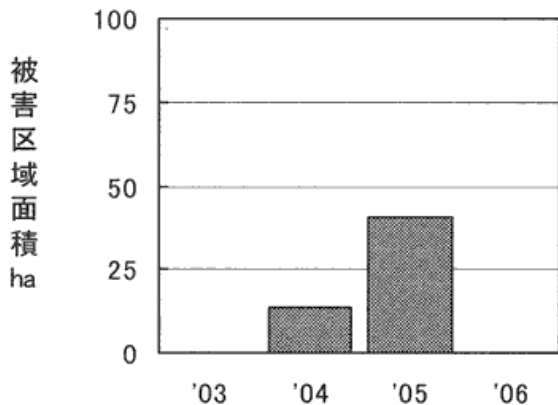


図-1 十勝地方2002年台風21号の風倒地域でのカラマツヤツバキクイムシの被害の推移

みられた(伊藤ら, 1997)。その後道南で1995~2002年の8年間に660~4,880haの被害が発生した(上田・原, 2006)。今回の被害は3年目であり, 近年の被害はいずれも8年間続いたことから, 被害面積が毎年2倍ずつ増加してきたことから, 今後も増加し継続する可能性がある。他のカラマツ食葉性昆虫の被害としては, 網走東部でのカラマツイトヒキハバチの被害についての相談があった程度である。しかし, カラマツ食葉性害虫はこれまで大発生をくりかえしてきたことから, カラマツハラアカハバチ以外にも引き続き注意されたい。

カラマツヤツバキクイムシについては, 2002年台風21号による十勝地方の風倒地において, 2004・2005年にみられた被害は終息した(図-1)。しかし, 2006年10月8日前後に通過した低気圧によって, 道東のほぼ全域と道北のオホーツク海側で風倒被害が生じた。本種による被害は, 風倒や伐採の2~3年後に発生することが知られている(上田, 2006)ことから, 2008年以降注意が必要である。2004年風倒が発生した十勝地方におけるフェロモントラップによるカラマツヤツバキクイムシのモニタリング調査結果でも, 風倒3年後の2005年に捕獲数が大幅に増加している(図-1)。しかし, 翌2006年は2005年に比べかなり減少した。なお, 2004年の捕獲数が少なかったのは, この時点では未整理の風倒木がまだ多量に残っており, 風倒木に集まるカラマツヤツバキクイムシが多

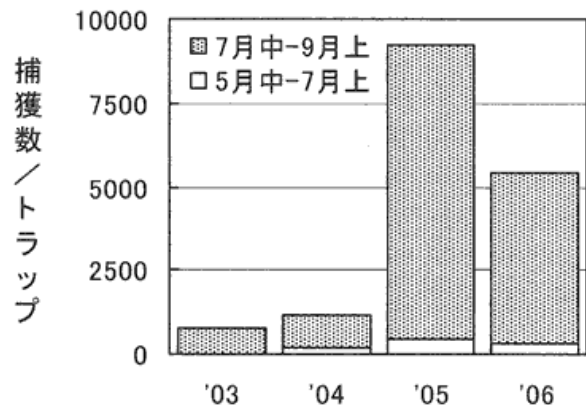


図-2 十勝地方2002年台風21号の風倒地域(池田町, 浦幌町)でのフェロモン・トラップによるカラマツヤツバキクイムシ平均捕獲数の推移

2003年7月から実施。調査地: 2003年2林分, 2004~6年4林分。5月中旬~7月上旬は主に越冬世代成虫, 7月中旬~9月上旬は主に第1世代成虫が捕獲される。北海道立林業試験場森林保護部, 十勝支庁林務課, 十勝森づくりセンター普及課の共同調査による。

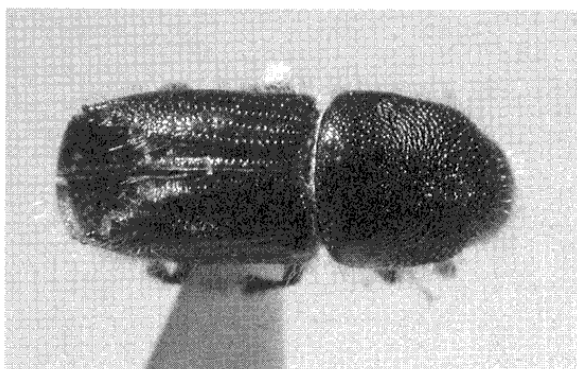


写真-1 ヤツバキクイムシ (体長4~6mm)

カラマツヤツバキクイムシと比べて鞘翅がやや短く、鞘翅末端のくぼみに毛がない。

かったことによると考えられる。また、2006年の捕獲数は前年より減少したとはいえ、かなり多かった。目立った被害が発生しなかったことは、生立木が台風の影響による衰弱から回復したことを示唆するかもしれない。2006年は他地域の6市町村から本種の被害情報が寄せられたが、多くがエゾマツ等トウヒ類での被害で、これは本種に近縁なヤツバキクイムシによる可能性が高いことから、表-2ではヤツバキクイムシの欄に移してある。また、本種の被害はカラマツ属にほぼ限定されていることから、ストロブマツとヨーロッパアカマツの被害も検討の必要がある。

ヤツバキクイムシ(写真-1)による被害は、苫小牧市と千歳市の樽前山山麓2004年台風18号風倒地でみられた。また、美幌市では、ヨーロッパトウヒ防風林の同台風風倒地で被害が発生している(池ノ谷, 2007)。表-2に示した他地域の被害も、多くが台風風倒地での被害と考えられる。但し、大空町(旧東藻琴町内)の被害は、60年生のアカエゾマツ造林地における2003~2005年の間伐跡地に発生した被害である(網走南部森林管理署石川寛氏私信)。本種による被害も、風倒や伐採の2~3年後から数年間発生することが知られている(上田, 2006)ことから、2007年以降も注意が必要である。

オオマルクビヒラタカミキリによる被害が美幌町のストロブマツでみられた。本種幼虫は、マツ科の衰弱木・枯死木の内樹皮を摂食する。今回被害が生じたストロブマツは、本種に加害される前に、何らかの影響で衰弱していた可能性が高い。

2006年はシナノキハムグリハバチの3年周期の

発生年にあたり、2003年と同様に富良野市の東大演習林一帯で大規模な被害が生じた。3年周期は、本種の幼虫が土中で3年の長期休眠をするために生じる(井口・尾崎, 2006)。ほとんどの木は7月に入ると新たな葉を展開し、被害が回復する(井口ら, 2001)。しかし、この地域では1988年から3年周期の発生が7回くり返されているため、蓄積した被害による枯損や枝枯れがわずかながらみられるようになってきている(井口・尾崎, 2006)。また、3年周期から1年ずれた個体群による軽度の被害が前回の大発生の翌年に生じている(上田・原, 2006)。このことから2007年も引き続き注意が必要である。

(¹)森林総合研究所北海道支所, (²)北海道立林業試験場)

引用文献

- 井口和信・尾崎研一(2006)長期休眠によるシナノキハムグリハバチ3年周期の大発生. 日林北支論54:121-123.
- 井口和信・尾崎研一・磯野昌弘(2001)北海道中央部に於けるシナノキハムグリハバチの生活史. 日林北支論49:96-98.
- 池ノ谷重男(2007)フェロモントラップを用いたヤツバキクイムシのモニタリング. 森林保護307:19-22.
- 伊藤賢介・福山研二・東浦康友・原秀穂(1997)1996年に北海道で発生した森林害虫. 北方林業, 49:224-227.
- 尾崎研一・原秀穂(2004)2001年に北海道で発生した森林害虫. 北方林業, 56:34-36.
- 上田明良(2006)大規模風倒後のヤツバキクイムシ類による生立木被害とその予防法-2004年18号台風とこれまでの台風の比較-. 日森林北海道支論, 54:156-159.
- 上田明良・尾崎研一・原秀穂・石濱宣夫(2004)2002年に北海道で発生した森林害虫. 北方林業, 56:85-86.
- 上田明良・尾崎研一・原秀穂・石濱宣夫(2005)2003年に北海道で発生した森林害虫. 北方林業, 57:64-65.
- 上田明良・原秀穂(2006)2004年に北海道で発生した森林害虫. 北方林業, 58:149-150.
- 上田明良・原秀穂(2007)2005年に北海道で発生した森林害虫. 北方林業, 59:159-160.